

# 幼児期に育みたい

## ことばの力と考える力

慶應義塾大学環境情報学部

<http://synodos.jp/intro/14531>

今井むつみ

[imai@sfc.keio.ac.jp](mailto:imai@sfc.keio.ac.jp)

<http://cogpsy.sfc.keio.ac.jp/imaplab/publications/index.html>

# まず結論から

- 幼児期は小学校以降の学びの基盤を作る大事な時期
- 学力の基盤となるのはことばの力
- ことばの力はことばだけの問題ではなく、考える力に直結する
- ことばは直接教えることができない
- 子どもは自分でことばの意味を考え、語彙を成長させていく。その経験を通じて学び全般に必要な思考力を育んでいく
- 豊かで質の良いことばかけが語彙、思考力の発達を促し、就学以降の学力を支えていく。

# ことばの力があるということはどういうこと？

- ことばをたくさん知っていること？
- ことばを自由に使えること？

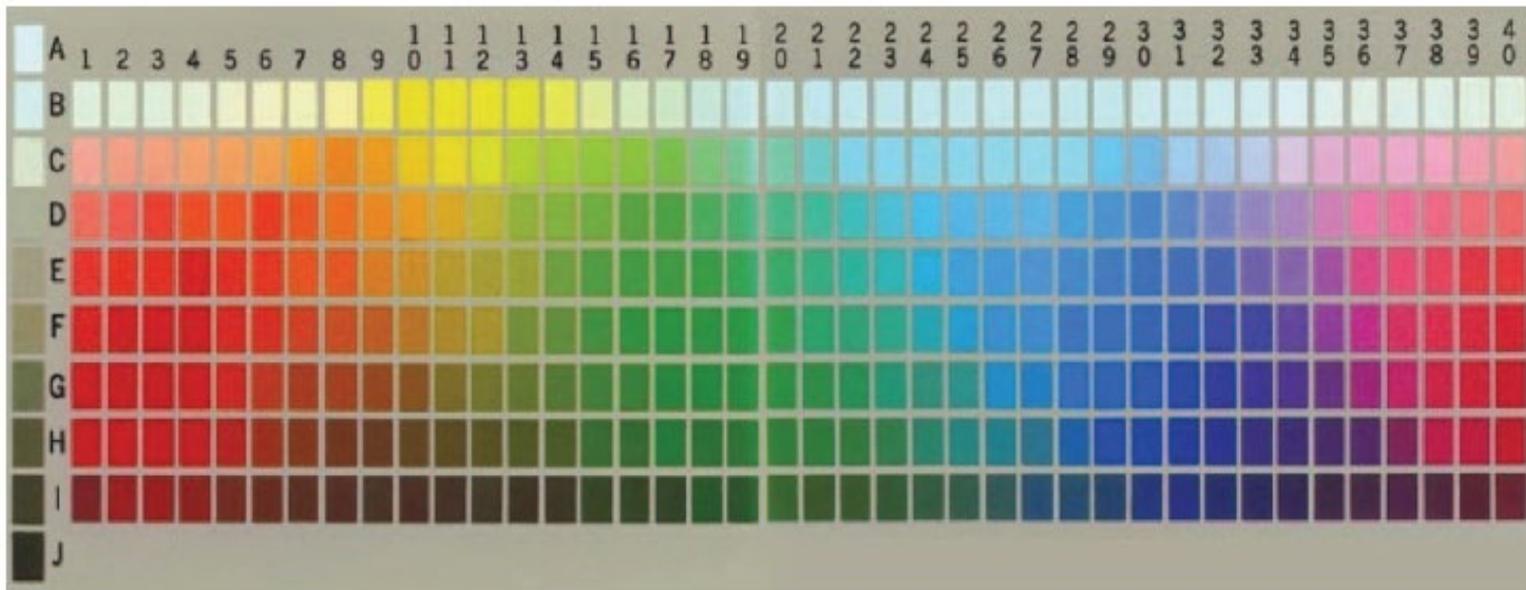
ウサギだよ



これはウサギ？



# 「青」の意味は？



- 「青」の意味は「いちばん青らしい青」がわかっただけで分かったことにはならない。範囲がわかる必要
- 「青」の範囲は色のことば全体の中で決まる
- 青信号、青い山脈、青いトマト、青い芝生....

# ことばが「どう使えるか」「いつ使えるか」を判断できるためには

- そのことばを取り巻く(そのことばと「似た」)他のことばと区別できること
- そのためには、何が必要か？
  - そのことばを取り巻く他のことばに何があるか知り、そのことばと他のことばの使える範囲に線を引くことができること
  - そのことばがどのような状況、文脈で使われるかを理解し、さまざまな状況で使うことができること

# もっとも大事なこと

- 「暗記」ではことばの意味は学習できない
- 子どもは自分でことばの意味を考える。そのとき、他の単語と関係づけながら考える。
- 自分で様々なことばの仕組みを発見していく

# 新しく覚えたことを分析してすぐ新しい 状況で使う力を子どもは持っている

- 祖母(お客さんに)「粗茶ですがどうぞ召し上がってくださいませ」
- 3歳女児「なんで <ソ>ってつけるの？」
- 祖母(孫娘に)「お客様には、<ソ>をつけるのよ」
- お客(孫娘が飼い猫を抱いているのをみて)「可愛いねこちゃんね」
- 3歳女児「ソネコです。」
-

# 「あれ何?」「おつきさま」の問題

ことばが指す対象の一つがわかっててもことばが指す範囲はわからない

ことばが指す範囲がわからないと意味はわからない

⇒意味は自分で推測して  
見つけるしかない



# 子どもは自分で範囲を推測している

- モノのどこに注目すればことばの範囲が決められるのかを**自分で発見**！

どれがネケ？

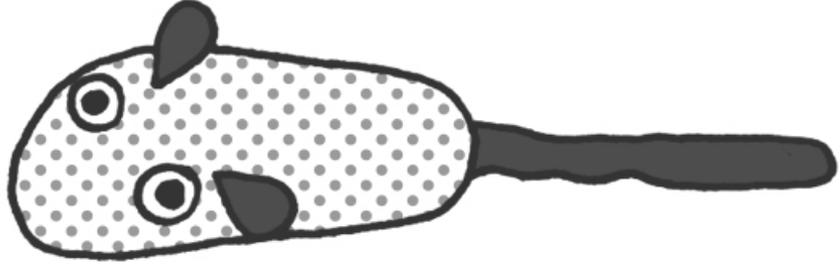
ネケ



①



②



③



④



# 子どもはどのようにことばを おぼえているのか

- **自分で**ことばの意味を考えている
- それぞれの単語をおぼえながら、「ことばの仕組み」を**自分で**発見している
- 自分で発見した「ことばの仕組み」の知識を使い、すでに知っている単語の知識も使ってあたらしい単語の意味を考え、**自分で**語彙をつくり、成長させていく

- ことばを子どもに「入れる」ことはできない。
- 子どもが自分でことばの意味と語彙の仕組みを探すことで豊かな語彙、「使えることば」が習得される。



# ことば力と思考力の関係

- ことば力が大事なのは「お話ができる」ためだけではない

# ことばが可能にすること



- いろいろな視点で世界を見ることができる
  - あげる、くれる、もらう
  - 行く、来る
  - 逃げる、追いかける
- 目で直接観察できない抽象的な世界を見ることができる

# 数の認識

- 「いち」「に」「さん」ということばがあることで、子どもは「数」と「量」が違う概念であることに気づく

# 自分や他の人の感情の理解

- きもちを表すいろいろなことばを覚えることで、細やかで正確な感情の理解が助けられる
  - 他者の気持ちの理解を支えるのは気持ちの言葉の理解
  - 「やさしい気持ち」だけではやさしい行動はとれない

# 関係性の認識

- 「大きいー小さい」などの対立するようすことば(形容詞)
  - 相対的な関係に対しての気づき
- 「前」「後」「右」「左」などの空間のことば
  - 空間の関係への気づき
  - ある視点(自分、あるいは外にある対象)を中心にして関係性を決める
    - 視点の柔軟性 → 思考の柔軟性

# ことばの力と考える力

## 考える力

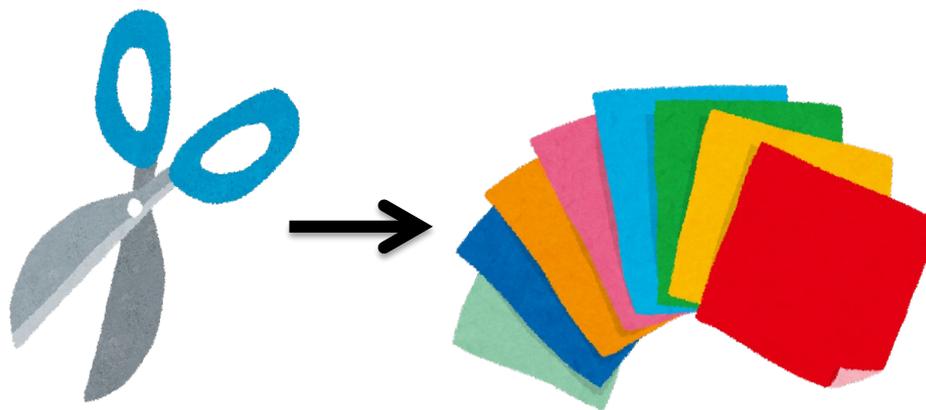
＝知識を使って推論し、  
問題解決する力

# 問題解決能力とは...

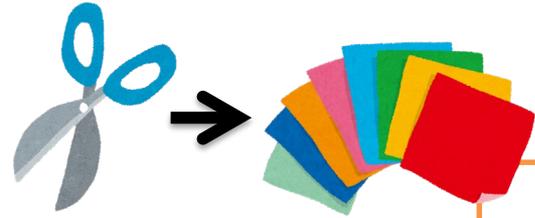
- 「知識がどれだけあるか」だけではない
- 情報処理能力
  - 問題を解決するのに必要な知識がどれだけ記憶から素早く取り出せるか
- 実行機能
  - 不必要な情報を抑制して、必要な情報や知識だけに集中できるか

# 「情報処理＋実行機能＋推論能力」 を必要とする問題解決

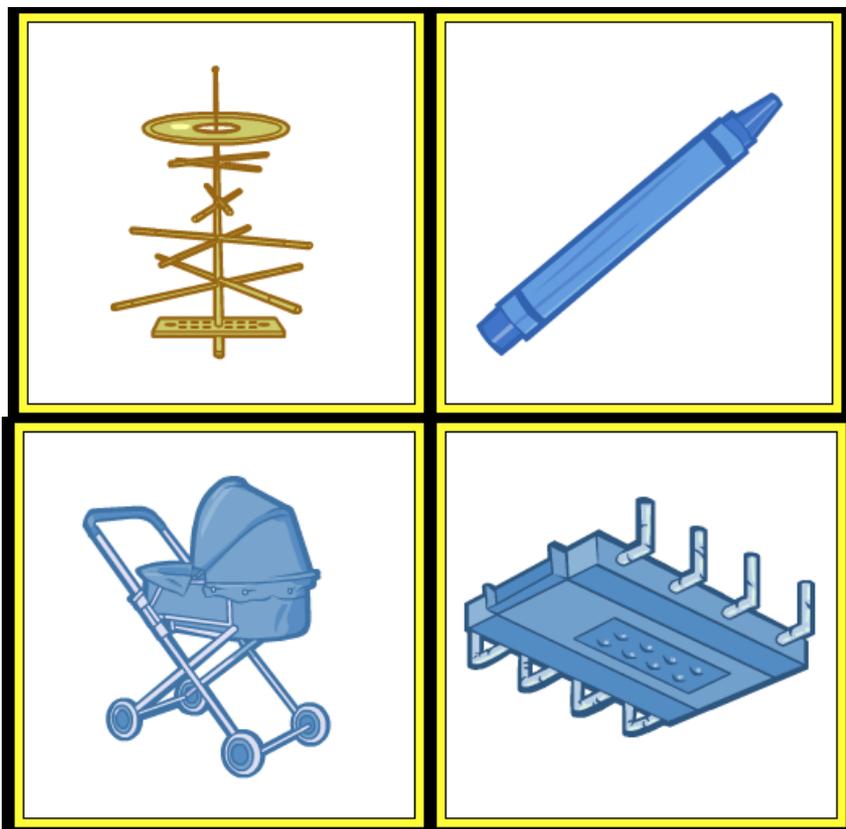
このペアは どんな かんけいでしょうか。  
かんがえて みましょう。



例と同じかんけいのペアをできるだけ  
たくさんさがして→でつなげよう



# 情報処理能力と実行機能は、新しい 単語の推測を上手にできるかにも影 響を与える



フェップは青いの。フェッ  
プを探して

- 言われた文の意味を理解
- 「フェップ」は自分の知らない単語であると認識
- 絵の中で自分がことばを知っているものがあるかを探す
- ことばを知らないモノを絞り込む
- そのうちで「あおい」にあたるものがあるかどうかを探す

# 「考える力(情報処理+実行機能+推論力)」はすべての能力の背後にある



読み、書き・計算など

Blaire & Razza, 2007



他の人の意図や気持ちの理解

Carlson & Moses, 2001



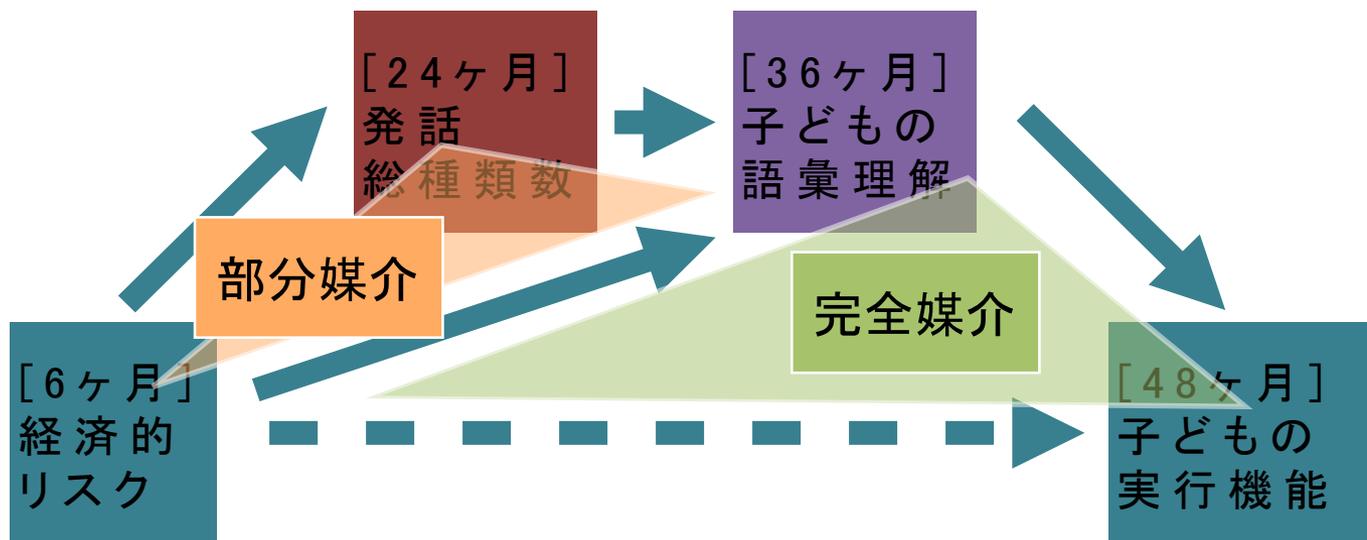
自分の感情を制御する力

Carlson & Wang, 2007



人とうまくつきあう力の習得

Clark et al., 2002



- 「考える力」はことばの力が介在する。
- ことばの力を伸ばすのは親のことばかけ

- 新しいことばをどんどん覚え、使うほど、「考える力(情報処理能力、実行機能、推論能力)」は伸びる。
- 「考える力」が伸びればことばの力が増し、「生きた知識」も増える

# 生きたことばの力に必要なもの

- 語彙の広さ  
(たくさんのことばを知っている)
- 語彙の深さ
  - ことばの意味が
    - 点ではなく面である
    - 他の似ている意味をもったことばと関係づけられ、意味の似ているところと違うところが理解されている
    - 一つの意味だけではなく、いろいろな意味を知っている
- 覚えたことばを記憶から自由に取り出せる
- 覚えたことばの意味を状況や文脈にあわせて修正できる
- 覚えたことばの知識を使って知らないことばの意味を推測できる

# 生きたことばの知識を身につける

- 生きたことばの知識を身につけるために一番大事なこと

十分な言葉かけをしてもらえない環境にいる  
子どもの例から...

Stanford Report, September 25, 2013

## Language gap between rich and poor children begins in infancy, Stanford psychologists find

社会経済的地位 (SES) が低い家庭の子どもは2歳の時点で、SESが高い家庭の子どもに比べ言語発達が6ヶ月遅れる。

# 親への介入で親の意識を変えれば経済格差による学力差は埋められる！



Gigliola Perez and her daughter, Jaime, work to develop early language skills with Nereyda Hurtado, director of the Habla Conmigo! program developed by Stanford psychology Professor Anne Fernald. (L.A. Cicero)

Stanford Report, November 5, 2014

Parents can help toddlers with slow language skills catch up, Stanford psychologist says

「Habla conmigo! (Talk with me!)プログラム」  
スペイン語話者の低所得家庭の母親を対象に、子どもとのかかわり方や脳の発達についての教育を行う。

# 成果

## ・親の変化

介入前(18ヶ月時点) = 介入群と比較群で、親の行動や子どもの言語能力に違いはない。

2歳時点 = 介入群では子どもに向けた発話が25%増加。対して、比較群では8%のみ。

## ・子どもの変化

25ヶ月時点で、介入群の子どものほうが、より高い言語能力を示した。

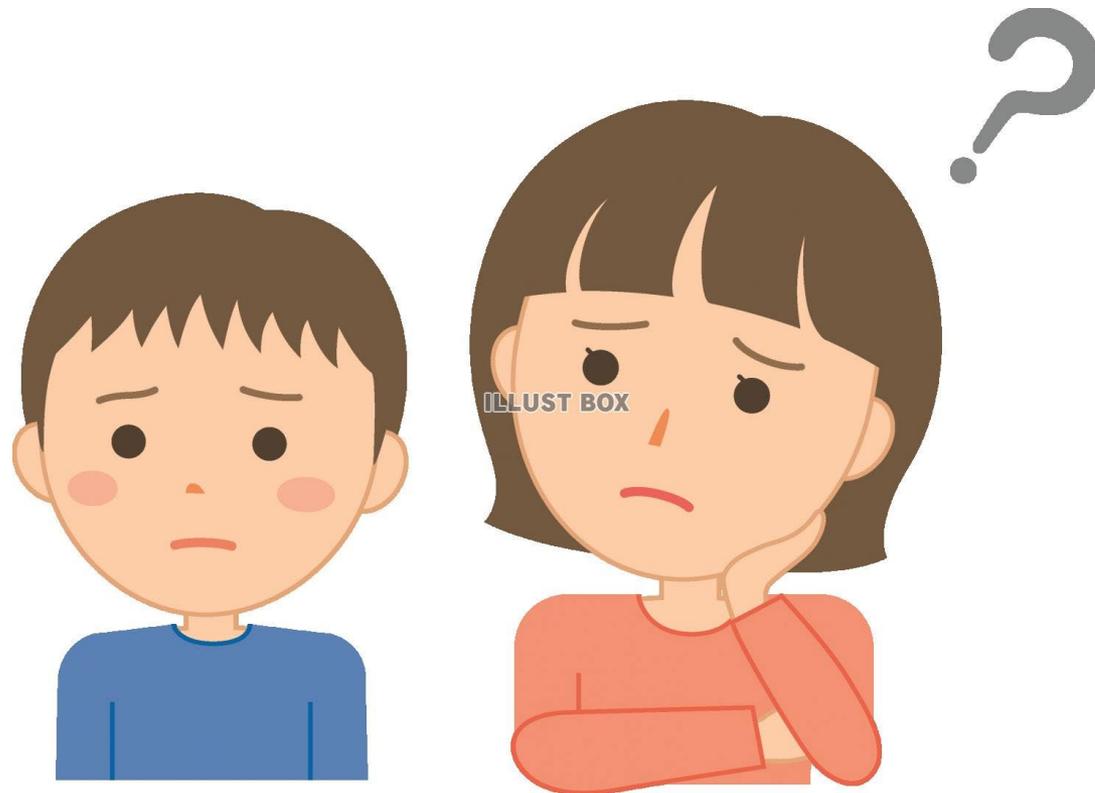
# 18か月、24か月時点の違いは放置すればさらに学力差の違いを生む

- ・2歳時点での言語処理の速さは、同時期の語彙の成長と強い関連(Fernaldら、2006)。
- ・2歳時点での言語能力が、6年後の言語能力と相関(Marchman & Fernald, 2008)。

大事なことは、幼児期から質の高いことばかけをたくさん、たくさんすること

質の高いことばかけ....

具体的に何をすればいいの？



# 子どもに話しかけるときのヒント

- 子どもとのおしゃべりを楽しむ気持ちで普通に話す
- 子どもの発達段階にあわせて話す

子どもをよく見てお話していれば誰でも自然にできます。



# 乳幼児期には「赤ちゃんことば」は有効

- 「捨てる」が理解できなくても「ポイする」なら理解しやすい
- 子どもにとって難しい動きことば(動詞)やようすことば(形容詞)を覚える準備として「擬態語」(オノマトペ)はとてもよい

# 複数の言い方をする

- 子どもと場면을共有しながら、なるべく多様にことばを使う。同じ場面で複数の言い方をするとい

# 自立的問題解決を促すことばかけ ⇒子どもの「考える力」の発達を促す

(Bernier, Carlson, & Whipple, 2010)



12ヶ月

15ヶ月

18ヶ月

26ヶ月

親子の遊びの場面(2つの難しいパズルを一緒に解く)で、  
どのような会話で子どもをサポートしているか

特に注目するのは「自立して問題解決するための支援」

- A. 子供が新しい挑戦を出来るように立ち回る
- B. ヒントを与えたり励ましたりする
- C. 同じ視点に立って課題に集中させる
- D. 子供に合わせて選択する機会を増やす

12ヶ月

15ヶ月

18ヶ月

26ヶ月

12か月時、18か月時のときの「**自立的問題解決への支援**」のことばかけが2歳時の「考える力」に影響



# 絵本読みもとても大事

- タブレットではなく、ほんものの絵本を
- 子どもの好きな絵本を何度でも
- 脱線すればするほど効果あり！
- 子どもが内容を理解しているかどうかなどは問いたださない



# タブレット絵本と紙絵本の読み聞かせ

- 同じ絵本を録音してタブレットで提示した場合と対面で紙の絵本を読んだ場合

→紙絵本ではあたらしいことばを学習、タブレット絵本でも学習できなかった

# 読む力とは

- 読書は学力に直結
- 読書に必要な認知の力
  - ✓ 文字の知識(ひらがな、漢字)
  - ✓ 語彙力
  - ✓ 本に書いてある文字の情報とことばの知識を統合して内容を理解する力
  - ✓ 行間を埋める力
  - ✓ 情報処理の能力(記憶から必要な知識を取り出す)と実行機能(必要な情報だけに注目し、他の情報は抑える)

# 就学後の読書への準備

幼児期には文字を覚えさせるより、ことばの力と考える力を育てるほうが大事！

# フィンランドの幼児教育

- 幼児教育（・保育） / Early Childhood Education

全ての子どもに受ける権利が、決定権は親が持つ

- デイケア : nurses と nursery teachers の元
- その他 : 託児所、保母さんを雇うなど

☆修学前教育 : 1年間の義務教育

# フィンランドの幼児教育の目的

- 以下の4項目を保護者とサポートすること
  1. 子どもの健やかな発達
  2. 全人としてのバランスの取れた発達
  3. 子どもの学び
  4. 子どもの幸福
- 特に教育学を重視した、計画的かつ目標思考の教育ケア
- 読み書きを教えるわけではない

# フィンランドの就学前教育の目的

- 原則

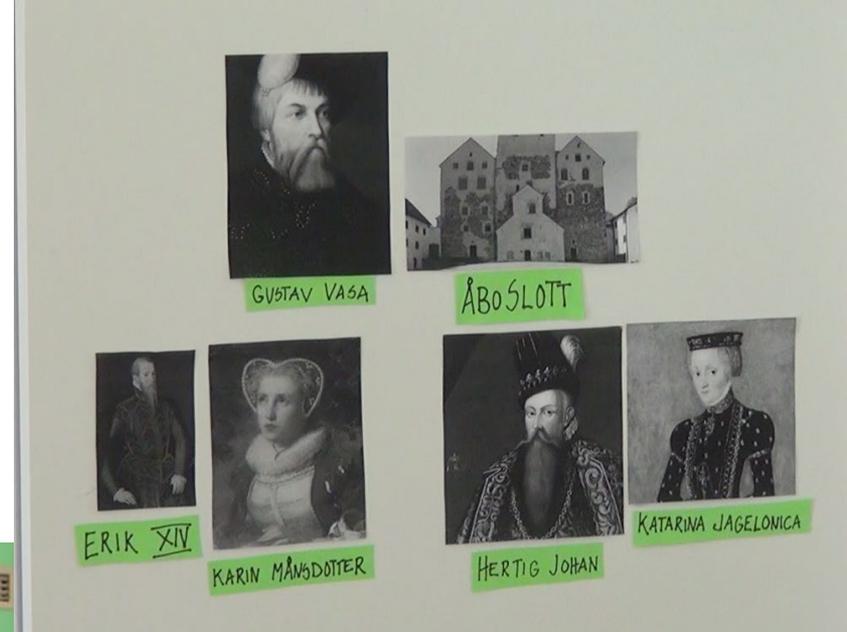
1. 個人として独立した人格をもつこと
2. 主体的な学びの重要性に気づくこと
3. 集団、社会の一員として生きることの大事さに気づくこと

- 子どもが持つ知識・能力・経験を基に行われ、遊びや今後のポジティブな見通しに焦点が置かれている
- 子どもに自発性を促進させ、何事に対しても積極的に取り組むことの意義を教える

- 遊び道具は自分でつくる



- 子どもの興味を道徳に結びつける  
つける  
(トゥルク城の例)



- アート作品の数々



- 読み聞かせの後には必ず全員に意見を



# • 目標思考のプログラム



- 自分の手で学ぶ



ことばの力は養育者やまわりの大人のよい質のことばかけで育まれ、「考える力」につながっていきます。

どういうことばかけがよいのか。それはマニュアルでは教えてくれません。子ども一人ひとりに「よいことばかけ」がちがうからです。そのとき頼るべきは子どもをよく観察して養った「直感」です！

# ご清聴ありがとうございました！

